今後の梨の管理作業について（号外第６号）

令和３年６月１６日
富山県富山農林振興センター
なのはな農業協同組合

４月の霜、あられの被害により産地全域で着果量の不足、果実の傷が多数発生しています。今後の梨の管理作業について、以下に留意して進めてください。

１　摘果作業について

表に示す、収穫時の標準的な着果量が見込めない場合は、通常は摘果するような小玉果、変形果、サビ果、傷果も残す、１果そう当たり２果着果させる（ただし、ハマキムシ類の被害を避けるため、収穫までに１果にする）等、着果量の確保を最優先として、新梢の過繁茂を防ぐことと、「幸水」については、７月上～中旬頃の裂果による着果量のさらなる減少を防ぐようにしてください。

表　収穫時の標準的な着果量

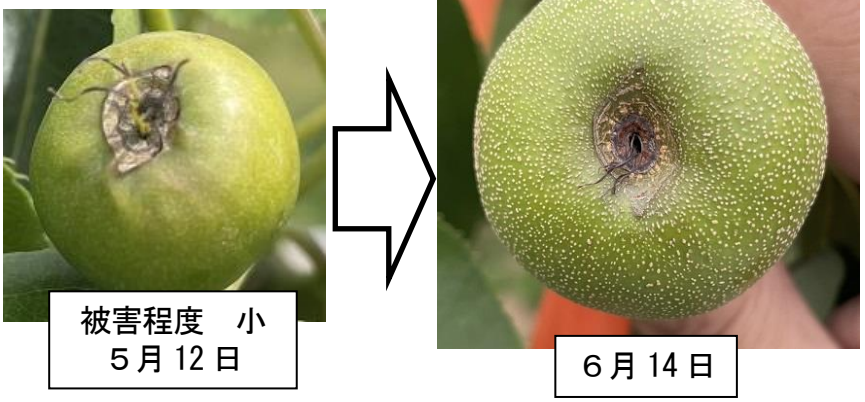
品種名	１㎡当たりの着果量	側枝長当たり（100～120cm）	１樹当たりの着果量（3間植の場合）
幸　水	10～11果	5～6個	290～320果／樹
豊　水	11～12果	6～7個	320～350果／樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果／樹
新　高	9～10果	4～5個	260～290果／樹

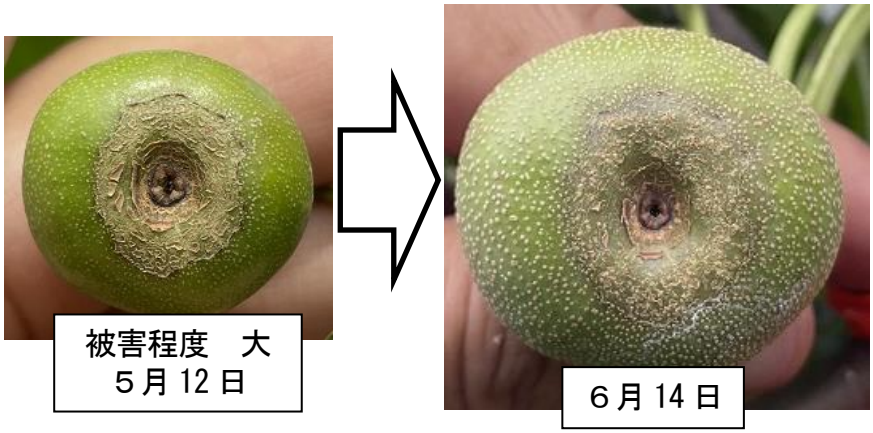
着果量が見込めるものの、霜やあられによる被害果が多い場合は以下の写真を参照に摘果作業を進めてください。

２　霜やあられによる被害の変化の推移

（１）霜による果頂部のサビ

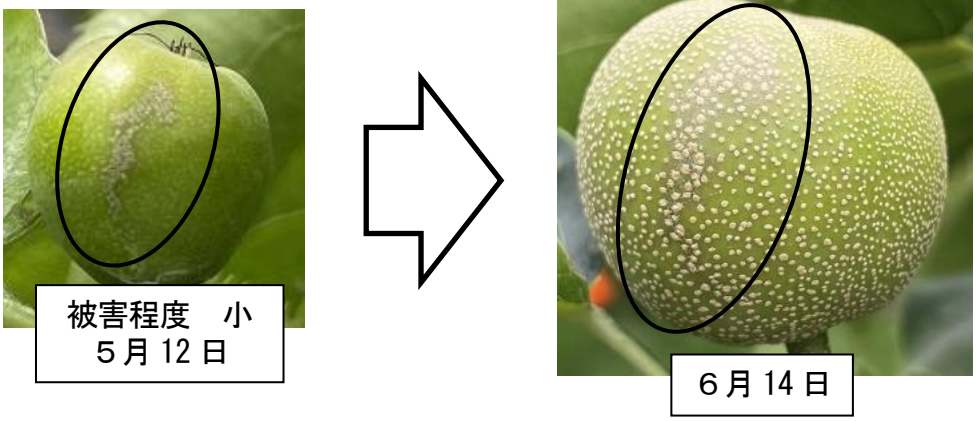
霜による果頂部のサビは、被害程度の大小にかかわらず、果実が肥大してもあまり大きくなっていませんが、できる限り被害程度の小さい果実を残すようにしてください。

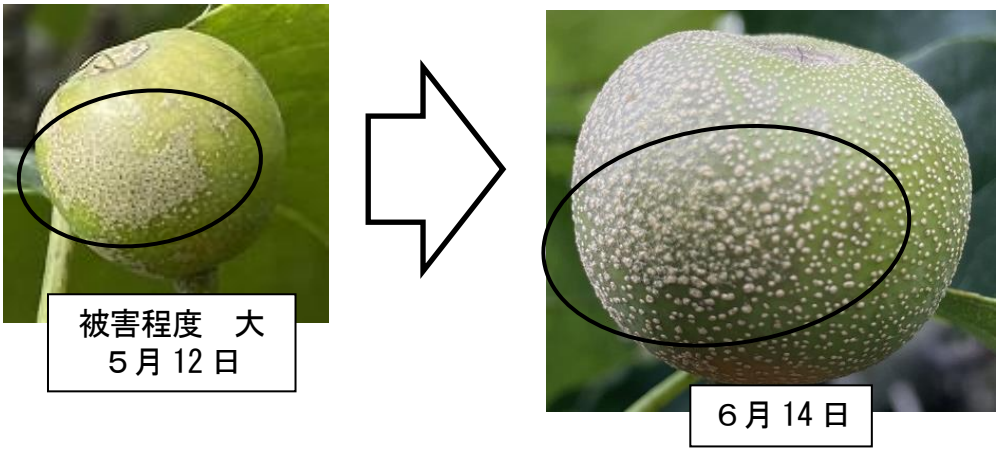




（２）霜による赤道部のサビ

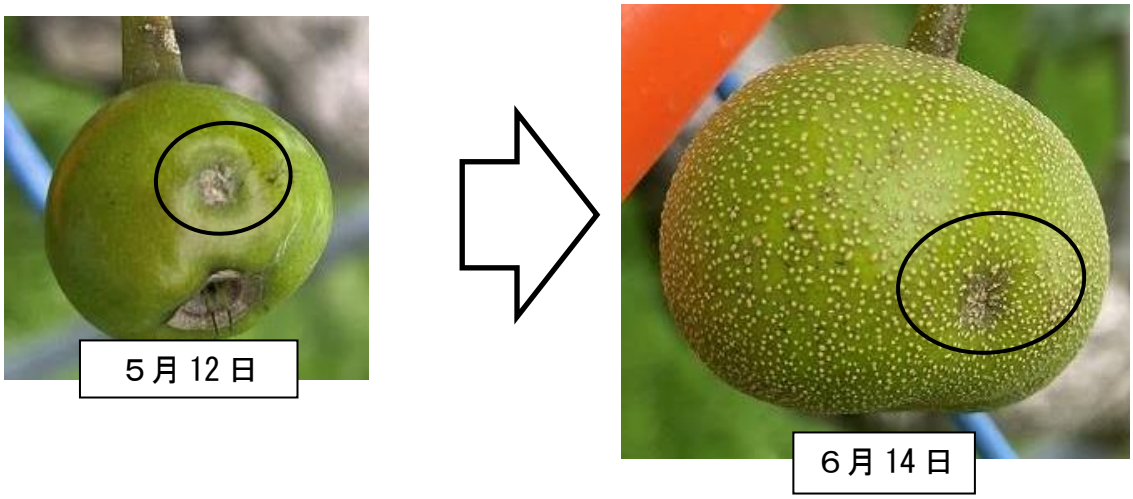
霜による赤道部のサビは、果実の肥大にともない、被害程度が小さい果実はあまり目立たなくなっていますが、被害程度が大きい果実はサビの面積が大きくなっています。できる限り被害の小さい果実を残すようにしてください。





（３）あられによるくぼみ

果実の肥大にともない、くぼみはやや浅くなっていますが、できる限りくぼみの浅い果実を残すようにしてください。



３　新梢管理について

結実量が少ない樹では、新梢が過繁茂となっています。栽培情報第４号を参照にして、新梢管理に努めてください。

作業に当たっては、こまめに水分を補給するなどして、熱中症に留意してください。